

令和7年度 日本留学促進のための海外ネットワーク
機能強化事業（サブサハラ・アフリカ地域）

成果報告書

秋田大学高等教育グローバルセンター

本報告書は、文部科学省の日本留学促進のための海外ネットワーク機能強化事業委託費による委託業務として、秋田大学が実施した令和7年度日本留学促進のための海外ネットワーク機能強化事業の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

目次

1. 事業概要.....	4
2. 成果.....	5
2.1. 国内の諸機関との連携.....	5
2.2. 現地諸機関との連携.....	6
2.3. 海外拠点事務所の設置および活用.....	7
2.3.1. ボツワナ国際科学技術大学(BIUST).....	8
2.3.2. ボツワナ大学(UB).....	8
2.3.3. ケニア.....	9
2.4. 現地教育機関訪問.....	9
2.4.1. ボツワナ.....	9
2.4.2. ケニア.....	10
2.4.3. ザンビア・ジンバブエ・モザンビーク.....	10
2.4.4. マダガスカル.....	10
2.5. SNS、ホームページによる広報活動.....	12
2.6. 留学フェアおよび留学説明会の実施.....	13
2.7. 日本語教育.....	13
3. まとめ.....	14

1. 事業概要

本事業は、これまでに日本の各大学で形成されてきた日本・アフリカ間のネットワークを一層強化して、留学フェアや学校訪問等を行い、多様な留学ニーズに合わせた日本留学への効果的な早期からのリクルーティング活動およびマッチング活動を促進するものである。さらに、渡日前入試や英語による教育プログラムを実施する大学などの情報を発信することで、サブサハラ地域からの留学生数を増加させることを目標とする。サブサハラ・アフリカの範囲は広大であり、より効率性が高い事業とするために、日本留学へのポテンシャル、人口・経済規模等の将来性を勘案して、本事業において本学海外事務所を設置している南部アフリカ地域のボツワナを「重点地域内で特に優先して取組を行う国」に設定した。さらにボツワナに加え、東部アフリカのケニアにも拠点を設置し、ザンビア、ジンバブエ、南アフリカ共和国、モザンビークなどの南部アフリカ地域に加え、タンザニア、ウガンダ、エチオピアなどの東部アフリカ地域にも事業を展開する。さらにこの2拠点を中心として、中部、西部のアフリカ諸国にもオンライン等を活用した活動を展開する。

活動内容としては、高校・大学・日本語学校生など様々なレベルの学生を対象とした留学フェアや学校訪問等を開催する。特に、より質が高く優秀な「学部留学生」を増加させることに焦点を当て、サブサハラ域内のトップクラス高校に対し、日本の大学の広報と留学相談を重点的に実施する点に本事業の特色がある。さらに、近年アフリカでも急速に普及しつつある SNS を利用した広報活動の柱としつつ、将来のキャリアパスについて予見可能性をもって日本の大学への留学を決断できるよう支援活動も実施することで、長期的に日本との架け橋になれる人材を発掘し、早期リクルーティングから帰国後のフォローアップまで、一貫した日本留学の支援の充実を図る。

アフリカの経済成長は高水準を維持しているものの、サブサハラ地域の平均賃金は低く、優秀な学生が留学するためには奨学金が欠かせない。本事業では、国や国際機関、大学独自の奨学金情報をその申請方法も含めて提供する奨学金申請のサポートにも力点を置く。

1～2 年目の初期段階では、「日本留学海外拠点連携推進事業」を実施してきた北海道大学からの情報の継承、サブサハラ地域からの留学生を多く受け入れている大学との連携、各国の帰国留学生同窓会との連携、日本国大使館や JICA、JSPS 等の現地日本関係機関との連携、サブサハラ地域各国政府関係機関等、本事業の関係機関との連携強化・信頼関係の構築に重点を置くとともに、高校・大学訪問や現地日本関係機関との情報交換等を幅広く行い、日本への留学ニーズの情報収集を重点的に行う。また、留学生の受入れを考えている日本の大学との連携を図り、受入れニーズの情報収集を行う。

2～4 年目の中期段階では、連携強化した関係機関や高校・大学訪問でのニーズを踏まえ、優秀な留学生獲得に向けた早期からのリクルーティング活動、日本への留学や日本の魅力についての情報発信、日本留学フェア等のイベントの開催、他団体が主催するイベント等での留学プロモーション活動等を重点的に行う。また、帰国留学生とのネットワーク構築やリ

クルート活動における協力深化に取り組む。

4～5 年目の後期段階では、リクルーティング活動、帰国留学生とのネットワーク構築等の各種事業を継続して実施するとともに、関係機関との連携にあたって得たノウハウ、現役留学生や帰国留学生からのアンケート、留学を受け入れる日本の大学の受入れ促進に関する取り組みについて情報収集するなど、さらなる留学生獲得に向け、本事業のとりまとめを行う。

このうち、2 年目である令和 7 年度は、中心拠点である現地事務所の整備と南部アフリカと東アフリカの日本国大使館、JICA、JSPS 等の現地日本関係機関および各地の大学や高校を訪問し、連携強化・信頼関係の構築に注力した。また、各地で開催される日本文化紹介のイベントなどに積極的に参加し、情報の共有と発信を実施した。さらに、令和 7 年度 TICAD9 が横浜で実施され、本事業では北アフリカ・中東地域担当の九州大学と合同の事業を展開した。

2. 成果

2.1. 国内の諸機関との連携

令和 7 年度は、国内外の関係機関との連携を一層強化することを目的として、大学、政府機関、国際機関等との情報交換および意見交換を継続的に実施した。

国内の大学との連携では、京都大学、東京大学、岡山大学、広島大学、九州大学等の留学生の受け入れ・国際関係部署を日本国内コーディネーターが訪問し、アフリカ地域からの留学生受け入れ状況や課題、今後の広報・説明会への協力について情報交換を行った。

また、九州大学 (J-MENA プロジェクト) とは、アフリカ地域を対象としたオンライン日本留学フェアを合同で企画・実施し、広域的な連携体制の構築を進めた。

政府機関・国際機関との連携としては、第 9 回アフリカ開発会議 (TICAD9) を通じて意見交換を行い、奨学金情報や留学動向に関する情報共有を実施した。以下に、令和 7 年度に実施した主な連携機関とのミーティングおよび打ち合わせを記録する。

・留学生の受け入れ・国際関係部署、アフリカと関わりのある教員等との情報交換

5 月：九州工業大学（オンライン）

6 月：鳥取大学、岡山大学、広島大学、山口大学

6 月：拓殖大学（オンライン）

8 月：東京大学

9 月：京都大学、立命館大学、京都先端科学大学

11 月：芝浦工業大学（オンライン）

12 月：北海道大学

1 月：東京外国語大学

2 月：九州大学

- ・九州大学 J-MENA プロジェクト

(オンライン日本留学フェアに関する打ち合わせおよび合同実施、2025 年 9～10 月)

- ・北海道大学

(オンライン日本留学説明会に関する打ち合わせおよび合同実施、2025 年 10～11 月)

- ・第 9 回アフリカ開発会議 (TICAD9) 参加 (2025 年 8 月、写真 1)

九州大学 (J-MENA) と合同でブース展示を行い、来場者への日本留学情報発信および意見交換を実施。Youth TICAD 運営代表・西島氏、世界銀行・ACE プログラム関係者、JICA と意見交換。



写真 1 第 9 回アフリカ開発会議 (TICAD9) における、九州大学 (J-MENA) との
合同ブース展示の様子

2.2. 現地諸機関との連携

在ボツワナ日本大使館との共同イベントを開催した。

1. ボツワナ国際見本市において共同でブースを設置し Study in Japan のコーナーを設けて、奨学金等の情報を発信した (2025 年 8 月 29 日、写真 2)
2. ボツワナ大学内にて日本映画祭と同時に留学説明会を実施した (2025 年 10 月 14、15 日、写真 3)。

また、ザンビア、ジンバブエ、モザンビーク、ケニアにおいても在外公館と共に次のように実施した。

3. 在ザンビア日本国大使館、ザンビア大学、秋田大学、北海道大学と共催で、ザンビア大学にて、日本留学説明会を開催した (2025 年 5 月 21 日)。
4. 在ジンバブエ日本国大使館、JICA ジンバブエ事務所と共同で現地アニメイベント OTAKUKON にブースを設置し、Study in Japan のコーナーを設けて、奨学金等の情報を発信した (2025 年 8 月 24 日、写真 24)。
5. 在モザンビーク日本国大使館、JICA モザンビーク事務所と共催で、マプト教育大学にて、日本留学説明会を開催した (2025 年 11 月 12 日)。



写真2 ボツワナ見本市での説明



写真3 UBでの映画祭と説明会

6. ケニア

ケニア事務所では、令和7年度はケニア国内の諸機関との連携に努めた。文部科学省国費外国人留学生奨学金（大使館推薦）の説明会が大使館で行われた際に協力し、質疑応答に対応した。また、具体的な留学相談があった際には本事業コーディネーターに繋いでもらった。このような連携のもと、ナイロビ以外での留学説明会（モンバサ）も実施できた。在ケニア日本大使館との緊密な連携のもと、近隣諸国の在外公館との連絡を取りつつあるところである。



写真4 在ケニア日本大使館にて
(ケニア)



写真5 モンバサでの留学説明会

2.3. 海外拠点事務所の設置および活用

本事業を担当する人員として、事務所長、国内コーディネーターおよびボツワナとケニアの拠点に駐在する現地コーディネーター、計4名の採用をした。事務所長および国内コーディネーターは2024年11月に着任し、現地コーディネーター2名は、2025年4月から正式着任した。ボツワナ国際科学技術大学には河野、ボツワナ大学には宮本、ケニアのナイロビには Kageema がそれぞれ着任し、活動を展開した。

2.3.1. ボツワナ国際科学技術大学(BIUST)

ボツワナ共和国パラペ市にある BIUST (Botswana International University of Science and Technology) 内の事務所には、コーディネーターの河野が 2025 年 4 月 1 日に着任した。学内で Study in Japan に関する情報提供を行うために、事務所での留学相談実施に加えて、関係各部署と 2026 年度のイベント開催等に向けた打ち合わせを進めると同時に、BIUST 学生自治会とも連携を進めている。また、日本語講座を単位取得科目として開講するための準備を開始。2026 年度中の開講を目指し、準備を進めている。

2.3.2. ボツワナ大学 (UB)

上記 BIUST の他に、首都ハボロネにあるボツワナ大学 (UB : University of Botswana) との MOU を更新し、本事業の事務所のサテライトオフィスを 2025 年 6 月に設置した。このオフィスを拠点に UB の学生や、ハボロネ市内在住の相談者からの留学相談を実施した。また、ボツワナで最初の日本語講座を 10 月から開始した。講座には約 200 名の応募者があり、そのうち登録をしたのは 43 名、修了したのは 20 名であった。



写真 6 UB の第 1 回日本語講座の修了式
(修了者と日本人ボランティア)



写真 7 UB の第 1 回日本語講座での
賞状の授与の様子



写真 8 UB 事務所



写真 9 UB 事務所

2.3.3. ケニア

2025 年 1 月より、JSPS ナイロビ研究連絡センター内に東アフリカ地域の拠点となるケニア事務所を設置した。2025 年 4 月 1 日より、コーディネーターの kagema が着任し、活動を開始した。また、相談者の利便性を考慮して、ケニヤッタ大学にもサテライトオフィスを設置した（2025 年 4 月 30 日）。



写真 10 JSPS ナイロビ研究連絡センター

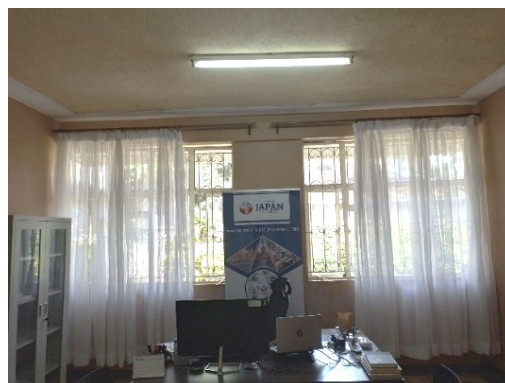


写真 11 JSPS 内ケニア事務所



写真 12 ケニヤッタ大学サテライトオフィス

2.4. 現地教育機関訪問

日本への大学院への留学を希望する学生が多く見込まれる現地の大学および学部への留学が見込まれる進学校を訪問し、説明会などの実施を依頼した結果、いずれの高校からも快諾を得た。

2.4.1. ボツワナ

ボツワナでは大学 3 校（BIUST、UB、Botho University）と高校 5 校（Maru A Pula International 写真 13、Enko Botho 写真 14、Livingstone Kolobeng College 写真 15、Westwood International 写真 16、Regent Hills）（2025 年 6～7 月）を訪問した。

2.4.2. ケニア

ケニアでは大学 4 校（Strathmore University 写真 17、Kenyatta University、Dedan Kimathi University、Jomo Kenyatta University of Agriculture and Technology）と高校 4 校（Aga Khan Academy Mombasa 写真 18、Brookhouse School 写真 19、Bishop Gatimu Ngandu Girls High School、Light International School Mombasa）を訪問し、エチオピアでは大学 2 校（Addis Ababa University、Addis Ababa Science and Technology University）と高校 4 校（Reach International Center for Education、International Community School of Addis Ababa、British International School、One Planet School 写真 20）を訪問した。

2.4.3. ザンビア・ジンバブエ・モザンビーク

ザンビアでは大学 1 校（ザンビア大学）と高校 4 校（International School of Lusaka、Lusaka International Community School、David Kaunda STEM Secondary School、Lusaka Oaktree International School）（2025 年 5 月、9 月）、ジンバブエでは大学 2 校（ジンバブエ大学、ビンドゥーラ科学教育大学）と高校 4 校（Dominican Convent Secondary、Celebration International、Harare International、Girls College）（2025 年 8 月）、モザンビークでは大学 2 校（マプト教育大学、エドゥアルド・モンドラーネ大学）と高校 2 校（Aga Khan Academy、Enko Maputo）（2025 年 11 月）を訪問し、校長および進学・キャリア担当教員らと懇談し、海外へ進学する学生の割合や日本留学に対するニーズなどを聞き取りし、日本の留学制度の紹介および留学申請手続きの支援について学生と保護者を対象に説明会を実施した。

2.4.4. マダガスカル

マダガスカルは、日本語学習熱の高いところであり、日本留学を希望する学生も大変多い国である。令和 7 年度は首都アンタナナリボで開催されたアフリカ日本語教師会の年次会に合わせて、7 月 16 日から 20 日にマダガスカルを訪れ、大学は国立アンタナナリボ大学、IEP ALTITUDE GROUP（私立大学）、高校は Ecole Sacre Coeur Antanimena（カトリック系私立進学校）を訪問し、今後の交流協定についての協議や留学説明会を実施した。



写真 13 Maru a Pula International（ボツワナ）



写真 14 Enko Botho（ボツワナ）



写真 15 Livingstone Kolobeng College (ボツワナ)



写真 16 Westwood International (ボツワナ)



ナ) 写真 17 Strathmore 大学 (ケニア)



写真 18 Aga Khan Academy (ケニア)



写真 19 Brookhouse School (ケニア)



写真 20 One Planet School Ethiopia (エチオピア)



写真 21 Dedan Kimathi University of Technology (ケニア)



写真 22 Kenyatta University (ケニア)



写真 23 Addis Ababa Science and Technology University (エチオピア)



写真 24 OTAKUKON (ジンバブエ)



写真 25 マプト教育大学 (モザンビーク)



写真 26 国立アンタナナリボ大学 (マダガスカル)

2.5. SNS、ホームページによる広報活動

令和7年度は、公式 SNS (Facebook、Instagram、X、YouTube) を活用し、継続的な情報発信を実施した。日本留学制度、奨学金情報、大学紹介、現役留学生の声など、多様なコンテンツを発信し、アフリカ地域における日本留学の認知度向上を図った。

新たな取り組みとして、アフリカ出身の現役留学生を紹介するポッドキャストシリーズ「From Africa, With Purpose」を開始した。本シリーズでは、タンザニア、ケニア、ザンビア、ルワンダ、ナイジェリア等出身の学生にインタビューを行い、日本留学の動機、大学生活、将来の展望などを発信している。実体験に基づく内容は、留学希望者にとって具体的かつ信頼性の高い情報源となっている。

また、「Study in Japan Deep Dive」と題した大学紹介コンテンツの制作を開始し、京都大学、京都先端科学大学、北海道大学、東京外国語大学の特徴、英語プログラム、就職支援体制等を分かりやすく紹介した。これにより、単なる制度紹介にとどまらず、大学ごとの強みを具体的に伝える広報体制を構築した。

これらの取り組みにより、オンラインを通じた広域的な情報発信基盤が強化され、今後の継続的なリクルーティング活動の土台を形成した。

以下に、1 年間の数値 (投稿数、再生回数、フォロワー数) の実績を表 1 に示す。

表1 SNS 広報活動実績 (2025/2/1~2026/3/31)

	投稿数	再生回数	フォロワー数 (増加)
Facebook	119	85,107	12,462 (+447)
Instagram	25	22,381	957 (+243)
X	44	7,415	8,063
YouTube	19	6,444	534 (+108)

2.6. 留学フェアおよび留学説明会の実施

ボツワナ、ケニア、ザンビア、ジンバブエ、モザンビーク、マダガスカルの各国において、大学および高校を対象とした対面の日本留学説明会を開催した他、オンラインおよび対面にて日本留学フェアおよび説明会を実施した。その登録者数および参加者数を表2に示す。

表2 オンライン日本留学フェア・説明会実施実績

	実施日	登録者数	参加者数
日本留学オンラインフェア 2025	2025 年 10 月 8 日	778	232
日本留学説明会 2025 (北海道大学)	2025 年 11 月 27 日	333	159
日本留学フェア 2025 (対面：南 アフリカ、ステレンボシュ大学)	2026 年 3 月 11 日・ 12 日	約 1,000	約 350
合計		2,111	741

2.7. 日本語教育

令和7年度から、ボツワナ大学でボツワナにおける初の日本語講座を開始した。短い広報期間であったにもかかわらず200名以上の応募があり、2クラス20名の学生が修了した。日本語学習の動機を見ると、多くの学習者が日本への留学や就職を考えていることがわかり、日本語講座が一つのとりかかりとなり、より具体的に日本留学を希望する人たちの数が増えることが予想される。今後はBIUSTでの開催を計画し、本事業実施中は継続していく予定である。



写真 27 日本留学フェア（ステレンボシュ大）



写真 28 2025 日本語講座修了式(UB)

3. まとめ

令和7年度は、ボツワナとケニアに現地コーディネーターが着任し、拠点国および周辺国での広報活動、日本語教育などのより実質的な活動を開始したことで、ほぼ予定通りの成果を上げることができた。特に、現地大学および高校を訪問し直接会って対話することで、日本留学に対する課題や具体的なニーズが見えてきた。また、日本への留学に興味関心はあったが、実際には日本・日本人との接点がなく具体的な検討に至らなかった人々にアプローチしたことで、優秀層の学生および保護者への日本留学機運の高まりを実感した。

さらに、今後は令和7年度に構築した南部・東部の各国の関係諸機関との関係を深めると同時に、西アフリカ諸国にも拡大し、日本の大学の魅力を積極的に説明し、潜在化している優秀な留学生を顕在化させ、早期に日本留学のリクルートを進めていく予定である。